

『清語易言』の漢語語彙(5)

竹越 孝

(承前)

9. 連詞

9.1 等立句

9.1.1 累加

“不但”

“不但”は1例、単独で用いられている。

満洲語では接続後置詞 *anggala* (～よりむしろ、～のみでなく) が対応する。

(1) 與其不但 (17b2) 〈*anggala*〉

上は満洲語の呼応関係について解説した部分で用いられており、“與其”“不但”がともに *anggala* に対応すると見るべきであろう。

“且”

“且”は2例用いられており、同じフレーズの中に現れる。

満洲語では動詞語幹形成接尾辞 *-kiya* に対応するものと思われる。

(1) 且等且走 (22b2) 〈*aliyakiyambi*〉

上は動詞 *aliyambi* (待つ) とペアをなし、*aliyakiyambi* は「歩きながら待つ」の意である。*-kiya/hiya/kiye/hiye* 等について、『清書指南・清文虚字講約』では“着力之意”，『清文啓蒙・清文助語虚字』では“行爲動用，力做開展之意”とする。

“况且”

“况且”は1例用いられている。

満洲語では接続後置詞 *anggala* に対応する。

(1) 况且告訴 (6a1) 〈*anggala*〉

“而且”

“而且”は1例、単独で用いられている。

満洲語では動詞 **bi** (ある, いる) の不定形が接続後置詞化した **bime** (～して, ～であって) に対応する。

(1) 而且 之下用又字 (16a5) 〈**bime**〉

上は満洲語の呼応関係を解説する部分で用いられており, “而且” と **bime** が等価と認識されていたことを示すものであろう。

“尚且”

“尚且” は 1 例, 単独で用いられている。

満洲語では副詞 **hono** (なお, かつ) が対応する。

(1) 尚且 之下有之處 (16b2) 〈**hono**〉

上は満洲語の呼応関係を解説する部分で用いられており, “尚且” と **hono** が等価と認識されていたことを示すものであろう。

“何况”

“何况” は 1 例, 単独で用いられている。

満洲語では, 疑問代名詞 **ai** (何) に動詞 **hendumbi** (言う, 話す) の連体未来形 **hendure** が後続した形に対応する。

(1) 下用何况 (16b3) 〈**ai hendure**〉

上は満洲語の呼応関係を解説する部分で用いられており, “何况” と **ai hendure** が等価と認識されていたことを示すものであろう。

“何説”

“何説” は 1 例, 単独で用いられている。

満洲語では, “何况” と同様に **ai hendure** が対応する。

(1) 何説 (17b1) 〈**ai hendure**〉

上は満洲語の呼応関係を解説する部分で用いられており, “何説” もまた **ai hendure** と等価であると認識されていたことを示すものであろう。

9.1.2 承接

“就”

“就” は 1 例用いられている。

満洲語では副詞 **uthai** (すぐ, すなわち) が対応する。

(1) 就 告訴是呢 (5a5) 〈**uthai**〉

“就是”

“就是”は1例用いられているが、副詞の“就”に動詞“是”が後続したものと見てよい。

満洲語では“就”と同様に副詞 *uthai* が対応する。

- (1) 就是得博比呢衣里摸庫監因上 (19b2-3) 〈*uthai*〉

“如比”

“如比”が1例用いられている。“比如”の誤である可能性もある。

満洲語では、名詞 *te* (いま, 現在) に動詞 *bi* の条件形 *bici* が後続した *te bici* (今となつては, 例えば) の形に対応する。

- (1) 如比阿呀則從口中吐説之音 (23b6) 〈*te bici*〉

“而後”

“而後”は5例用いられており、うち2例は単独で用いられる。単独でない3例はいずれも後置詞的な使われ方をしている。

満洲語ではいずれも接続後置詞 *manggi* (～したあと, ～すると) に対応する。単独でない3例はいずれも動詞連体過去形 *-ha/he/ho* に後続している。

- (1) 告訴了而後 (6a4) 〈*manggi*〉
(2) 順口演熟而後 (11b4) 〈*manggi*〉
(3) 而後 (15a3) 〈*manggi*〉
(4) 而後之上 (17a1) 〈*manggi*〉

上の(3)は *manggi* の発音を解説した部分, (4)は呼応関係を解説した部分で用いられており、いずれも“而後”と *manggi* が等価と認識されていたことを示すものであろう。

9.1.3 反転

“但”

“但”は1例用いられている。

満洲語では副詞 *damu* (ただ, わずかに) が対応する。

- (1) 但清字 (23a1) 〈*damu*〉

“不過”

“不過”は2例用いられており、いずれも“大不過”の形を取る。うち1例は単独で用いられている。

満洲語では、副詞 *manggai* (ただ, どうせ) に動詞 *ombi* (なる, できる)

の条件形 *oci* が後続した *manggai oci* の形に対応するもの、その縮約形と考えられる *manggici* に対応するものが各 1 例である。

(1) 大不過 告訴吧咧 (10a4) 〈*manggai oci*〉

(2) 大不過 (15a4) 〈*manggici*〉

(2) は *manggici* の発音を解説した部分に用いられており、“大不過”と *manggici* が等価と認識されていたことを示すものであろう。

9.2 主従句 I

9.2.1 比較

“與其”

“與其”は 1 例、単独で用いられている。

満洲語では接続後置詞 *anggala* が対応する。

(1) 與其不但 (17b2) 〈*anggala*〉

上で述べたように、“與其”“不但”がともに *anggala* に対応すると見るべきであろう。

“盡其”

“盡其”は 3 例用いられており、うち 1 例は単独で用いられ“獨盡其”の形を取る。他の 2 例はいずれも“盡其所～”の形である。

満洲語では、接続後置詞 *teile* (～の限り、～ばかり) に対応するものが 2 例、形容詞 *ele* (あらゆる、すべての) に対応するものが 1 例である。

(1) 盡其所記言之 (23b4) 〈*teile*〉

(2) 獨盡其 (17b4) 〈*teile*〉

(3) 乃諸凡盡其所有之意 (20a5) 〈*bisirele*〉

(3) は動詞 *bi* の完了未来形 *bisire* に形容詞 *ele* が接尾した形と思われる。(2) は満洲語の呼応関係を解説した部分で用いられており、“獨盡其”と *teile* が等価と認識されていたことを示すものであろう。

9.3 主従句 II

9.3.1 因果

“因”

“因”は 3 例用いられており、うち 2 例は主節を伴い、1 例は主節を伴わない。

満洲語では、いずれも動詞 *ombi* の連用先行形が後置詞化した *ofi* (～なので、～だから) に対応する。

- (1) 因告訴了纔知道 (8b6) 〈ofi〉
- (2) 果然因告訴了啊 (9a1) 〈ofi〉

9.3.2 讓步

“雖”

“雖”は6例用いられ、うち1例は単独で用いられている。

満洲語では、副詞 **udu** (たとえ、いくら) に対応するものが3例、動詞の連用逆接形 **-cibe** に対応するものが2例、動詞 **sembi** の不定形が後置詞化した **seme** (～と言っても、～としても) に対応するものが1例である。

- (1) 雖告訴了 (9a5) 〈udu〉
- (2) 此幾字作雖字首下用 (16a2) 〈udu〉
- (3) 雖告訴不相干 (5b3-4) 〈alacibe〉
- (4) 雖告訴無涉 (9b6) 〈seme〉

(2)は満洲語の呼応関係を解説した部分で用いられており、“雖”と **udu** が等価と認識されていたことを示すものであろう。なお、上で **udu** に対応するとした他の2例も **-cibe** あるいは **seme** で受けている。

“雖是”

“雖是”は1例用いられている。

満洲語では接続後置詞 **gojime** (～とはいえ、～だけれども) が対応する。

- (1) 雖是告訴 (6a1) 〈gojime〉

“雖然”

“雖然”は3例用いられ、うち1例は単独で用いられている。

満洲語では、副詞 **udu** に対応するものが2例、動詞逆接形の **-cibe** に対応するものが1例である。

- (1) 雖然告訴了 (9a5) 〈udu〉
- (3) 雖然 (16a2) 〈cibe〉

(3)は満洲語の呼応関係を解説した部分で用いられており、“雖然”と **-cibe** が等価と認識されていたことを示すものであろう。

“雖說”

“雖說”は3例用いられている。うち2例は単独で用いられ、そのうちの1例が“雖說過”の形を取る。

満洲語では、動詞 **sembi** の連体過去形 **sehe** に後置詞化した **seme** が後続

する *sehe seme* (言ったとしても) に対応するものが 2 例, *seme* に対応するものが 1 例である。

- (1) 雖說是告訴了 (9a4) 〈*sehe seme*〉
- (2) 雖說 (16a2) 〈*seme*〉
- (3) 雖說過等字 (16a3) 〈*sehe seme*〉

(2) と (3) は満洲語の呼応関係を解説した部分で用いられており, “雖說” と *seme*, “雖說過” と *sehe seme* が等価と認識されていたことを示すものであろう。

9.3.3 推測

“既”

“既” は 1 例用いられている。

満洲語では接続後置詞 *nakū* (～するや否や, ～するとすぐ) が対応する。

- (1) 既告訴又反覆 (10a1) 〈*nakū*〉

“既而”

“既而” は 1 例, 単独で用いられている。

満洲語では, 動詞 *ombi* の命令形 *oso* に *nakū* が後続した *oso nakū* (なつてすぐに) が対応する。

- (1) 既而 (16a4) 〈*oso nakū*〉

上は満洲語の呼応関係を解説した部分で用いられており, “既而” と *oso nakū* が等価と認識されていたことを示すものであろう。

“既然”

“既然” は 3 例用いられ, うち 1 例は単独で用いられている。

満洲語ではいずれも動詞 *dahambi* (～従う) の不定形に由来する接続後置詞 *dahame* (～に従って, ～なので) に対応する。

- (1) 既然告訴 (6a5) 〈*dahame*〉
- (2) 今既然問 (23b2) 〈*dahame*〉
- (3) 既然之上 (17b1) 〈*dahame*〉

(3) は満洲語の呼応関係を解説した部分で用いられており, “既然” と *dahame* が等価と認識されていたことを示すものであろう。

“既是”

“既是”は2例用いられており、うち1例は単独で用いられている。
満洲語ではいずれも接続後置詞 *tetendere* (～するからには、～ならそれでよい) が対応する。

(1) 既是告訴 (6a4) 〈*tetendere*〉

(2) 既是 (17a3) 〈*tetendere*〉

(2) は満洲語の呼応関係を解説した部分で用いられており、“既是”と *tetendere* が等価と認識されていたことを示すものであろう。

9.3.4 假定

“如若”

“如若”は1例用いられている。

満洲語では副詞 *aika* (もし、まさか) が対応する。

(1) 如若告訴的時節 (6a2) 〈*aika*〉

“倘若”

“倘若”は2例用いられ、うち1例は単独で用いられている。

満洲語ではいずれも副詞 *aikabade* (もし、仮に) が対応する。

(1) 倘若不告訴如何得知道 (8b6-9a1) 〈*aikabade*〉

(2) 倘若之下用 (16a3) 〈*aikabade*〉

(2) は満洲語の呼応関係を解説した部分で用いられており、“倘若”と *aikabade* が等価と認識されていたことを示すものであろう。

“若”

“若”は11例用いられており、うち2例は単独で用いられている。

満洲語では、単独の場合に副詞 *aika* に対応するものが1例あるほかは、動詞条件形の *-ci* に対応するものが7例、動詞 *ombi* の条件形 *oci* に対応するものが3例であり、ほぼ条件形に対応していると言える。

(1) 若告訴不好了 (6a3) 〈*alaci*〉

(2) 若不不用告訴 (6b1) 〈*akūci*〉

(3) 若先告訴 (7a1) 〈*oci*〉

(4) 若別的頭兒字上改認的韻 (13a1-2) 〈*oci*〉

(5) 若從 (16a4) 〈*ci*〉

(6) 乃若第幾從由 (18a5) 〈*aika*〉

(5) は満洲語の呼応関係を解説した部分、(6) は *-ci* の意味と用法を解説した部分で用いられており、前者は“若”“從”がともに *-ci* の意味

であることを示すと考えられる。“若”が -ci 及び aika と等価であると認識されていたことを示すものであろう。

“若是”

“若是”は10例用いられており、うち1例は単独で用いられる。

満洲語では、動詞 ombi の条件形 oci に対応するものが9例、動詞 bi の条件形 bici に対応するものが1例である。

- (1) 若是 這樣 (4b1) 〈oci〉
- (2) 若是 告訴 (6a3) 〈oci〉
- (3) 這一向 若是 告訴過 (10a2) 〈bici〉
- (4) 若是 之字 (16a4) 〈oci〉

(4)は満洲語の呼応関係を解説した部分で用いられており、“若是”と oci が等価と認識されていたことを示すものであろう。

9.3.5 限定

“餘外”

“餘外”は1例、単独で用いられている。

満洲語では接続後置詞 tulgiyen (～のほか、～以外) に対応する。

- (1) 餘外 (17a3) 〈tulgiyen〉

上は満洲語の呼応関係を解説した部分で用いられており、“餘外”と tulgiyen が等価と認識されていたことを示すものであろう。

9.3.6 不限定

“不論”

“不論”は3例用いられており、うち2例は後に疑問詞を伴う。

満洲語では、疑問詞を伴う2例は副詞 yaya (すべて、およそ) に対応し、そうでない例は動詞 bodombi (思う、考える) の否定形 bodorakū に対応する。

- (1) 不論 怎麼告訴吧 (10b5) 〈yaya〉
- (2) 不論 上字是陰陽 (28b3) 〈bodorakū〉

(2)の例は動詞としての用法に近いものであろう。

“任意”

“任意”は2例用いられており、うち1例は単独で用いられている。

満洲語では、副詞 ciha または cihai (思うままに、勝手に) に対応する。

(1) 任意告訴使不得 (8a5-6) 〈cihai〉

(2) 任意 〈ciha〉 (17b4)

(2) は満洲語の呼応関係を解説した部分で用いられており、“任意”と ciha が等価と認識されていたことを示すものであろう。

“任憑”

“任憑”は2例用いられており、1例は“任平”の表記である。いずれも後に“怎麼”を伴う。

満洲語では、“任憑(平)怎麼”の形に対して1例が動詞 eiterembi の不定形に由来する副詞 eitereme (いくら, どんなに) に対応し、1例が疑問詞 ai に名詞 hacin (種類, 件) の属格形が後続した ai hacin i (どのように, どんなに) に対応する。

(1) 任平怎麼告訴什麼要緊 (10a4) 〈eitereme〉

(2) 雖然任憑怎麼告訴 (10b6) 〈ai hacin i〉

10. 助詞

10.1 連語

10.1.1 等類

“等”

“等”は21例用いられており、うち1例は単独で用いられる。

満洲語では、19例が名詞 jergi (等級, 種類) に対応し、1例は名詞 urse (人々, 輩) に対応し、1例は特に対応語彙を持たない。

(1) 行那樣告訴等助語 (11b3) 〈jergi〉

(2) 再別之下用拉勒羅等字 (16a1) 〈jergi〉

(3) 乃們等之意 (20a3-4) 〈urse〉

(4) 跑等 (15b1) 〈uruldembi〉

(3) は名詞の複数接尾辞 -sa/se/so 等の意味を解説した部分で用いられており、“們”と“等”がともに urse に対応すると見るべきであろう。動詞 uruldembi は馬を競走させる意である。

“們”

“們”は4例用いられ、うち1例は単独で用いられる。他の3例は“老家兒們”の形を取る。

満洲語では、“老家兒們”の場合複数接尾辞 -sa に対応し、単独の場合は名詞 urse に対応する。

- (1) 皆老家兒們口傳心受之條 (23b1) 〈sakdasai〉
- (2) 我把聽見老家兒們 (23b3) 〈sakdasai〉
- (3) 乃們等之意 (20a3-4) 〈urse〉

10.1.2 類似

“一樣”

“一樣”は1例、単独で用いられている。

満洲語では形容詞 *adali* (同じ, ~のよう) が対応する。

- (1) 一樣之上 (17b4) 〈adali〉

上は満洲語の呼応関係を解説した部分で用いられており, “一樣” と *adali* が等価と認識されていたことを示すものであろう。

“是的”

“是的”は1例用いられており, “好象”と呼応している。

満洲語では接続後置詞 *gese* (~のよう, ~と同じ) が対応する。

- (1) 好象告訴是的 (11b2) 〈gese〉

10.1.3 仮定

“時”

“時”は1例, “了時”の形で単独で用いられている。

満洲語では, 動詞の連体過去形語尾 *-ha* が与位格語尾 *-de* を伴う形に対応する。

- (1) 了時 (16a3) 〈hade〉

上は副詞 *aikabade* との呼応を解説した部分で用いられており, “時”も仮定の用法を意図したものと見てよいと思われる。

“當時”

“當時”は1例用いられている。

満洲語では, 名詞 *nergim* (機会, 折) が与位格語尾を伴う形に対応する。

- (1) 告訴的當時 (6a2) 〈nerginde〉

“時節”

“時節”は1例用いられており, “如若”と呼応している。

満洲語では, 動詞 *ombi* の連体過去形 *oho* が与位格語尾を伴う形に対応する。

- (1) 如若告訴的時節 (6a2) 〈ohode〉

“時候”

“時候”は2例用いられ、うち1例は“了時候”の形で単独で用いられる。

満洲語では、名詞 *erin* (時, 時期) に対応するもの、*ohode* に対応するものが各1例である。

- (1) 又費赶到去的時候之意 (20a2-3) 〈*erin*〉
(2) 了時候 (16a4) 〈*ohode*〉

(2) は副詞 *aikabade* との呼応を解説した部分で用いられており、“時候”も仮定の用法を意図したものと見てよいと思われる。

“節”

“節”は1例、“了節”の形で単独で用いられている。“了時節”の誤である可能性もある。

満洲語では、動詞の連体過去形語尾 *-he* が与位格語尾 *-de* を伴う形に対応する。

- (1) 了節 (16a4) 〈*hede*〉

上は副詞 *aikabade* との呼応を解説した部分で用いられており、“節”も仮定の用法を意図したものと見てよいと思われる。

10.2 句末

10.2.1 甲類

“麼”

“麼”は26例用いられており、うち8例が単独で用いられている。

満洲語では、疑問語尾 *-o* に対応するものが23例、その特殊形式である *-n* に対応するものが3例である。

- (1) 阿哥讀過書麼 (4a1) 〈*babio*〉
(2) 諸凡都告訴畢了麼 (4b5) 〈*alahabio*〉
(3) 這是無告訴的麼 (5a2) 〈*alahakūnggeo*〉
(4) 至到此時沒告訴麼 (4b6) 〈*alahakūn*〉
(5) 好麼 (14a5) 〈*saiyūn*〉
(6) 真麼 (14b1) 〈*yargiyūn*〉
(7) 果然麼 (16b3) 〈*mujanggao*〉
(8) 麼 (16b3) 〈*bio*〉

- (9) 使得麼之字 (16b3) 〈ombio〉
- (10) 的麼之問意 (19a4) 〈undenggeo〉
- (11) 有毆字了的麼之問意 (19a6) 〈ohonggeo〉
- (12) 俱了麼之問意 (19b1) 〈ohoo〉

上で、(5) (6) は発音を解説した部分、(7) (8) (9) は呼応関係について解説した部分、(10) (11) (12) はそれぞれ -ranggeo/renggeo/ronggeo 等、-hanggeo/henggeo/honggeo 等、-hao/heo/hoo 等の意味を解説した部分で用いられている。いずれも“麼”と -o が等価と認識されていたことを示すものであろう。

“呢”

“呢”は 11 例用いられ、うち 2 例は単独で用いられる。単独で用いられるうちの 1 例は“呢啊”の形を取る。

満洲語では、動詞先行形語尾 -me に後続する動詞 bi (ある, いる) に対応するものが 3 例、文末後置詞 ni (～だ, ～なのだ) に対応するものが 3 例、“呢啊”の形で nikai (～なのだ) に対応するものが 1 例、同類の文末後置詞と考えられる na に対応するものが 1 例あるほか、特に対応語彙がないと考えられるものも 3 例ある。対応語彙がないと考えられる 3 例は、動詞現在形語尾 -mbi が 2 例、疑問詞 aina (何だ) が 1 例である。

- (1) 現今又讀滿洲書呢 (4a2) 〈bi〉
- (2) 阿哥你讀什麼書呢 (4a3) 〈bi〉
- (3) 未必告訴了呢 (5b3) 〈ni〉
- (4) 原來之下用呢呢啊之字 (16b1) 〈ni〉
- (5) 原來之下用呢呢啊之字 (16b1) 〈nikai〉
- (6) 告訴過的可不是什麼呢 (11b2) 〈aina〉
- (7) 纔能說呢 (12a3) 〈mutembi〉
- (8) 告訴有什麼呢 (5a6) 〈aibi〉

(4) (5) は満洲語の呼応関係を解説した部分で用いられており、“呢”と ni が等価と認識されていたことを示すものであろう。

“是呢”

“是呢”は 2 例用いられている。

満洲語ではいずれも動詞の希求願望形 -cina が対応する。

- (1) 就告訴是呢 (5a5) 〈alacina〉
- (2) 不論誰先告訴是呢 (10b5) 〈alacina〉

“罷呀”

“罷呀”は2例用いられている。

満洲語では文末後置詞 **bai** (～だな, ～だろう) に対応するもの, 動詞 **joombi** (やめる, 中止する) の命令形 **joo** に **bai** が後続した **joobai** の形に対応するものが各1例である。

- (1) 不告訴罷呀 (5b5) 〈bai〉
- (2) 不告訴罷呀 (6b2) 〈joobai〉

上の2例の漢語は同じ表現だが, 満洲語は(1) **alarakū bai** (告げないのだな), (2) **alara be joobai** (告げるのを止めよ) で意味が異なる。

“罷”

“罷”は1例, 単独で用いられている。

満洲語では文末後置詞 **dere** (～だぞ, ～だろう) が対応する。

- (1) 想是之下用罷云爾想敢之字 (16a6-16b1) 〈dere〉

上は満洲語の呼応関係について解説した部分で用いられており, “罷”と“云爾”がともに **dere** に対応すると見るべきである。

“吧”

“吧”は4例用いられている。

満洲語では動詞の希求許容形 **-kini** に対応するものが2例, 文末後置詞 **dere** に対応するもの, **aise** (～だろう, ～はずだ) に対応するものが各1例である。

- (1) 由着告訴吧 (5a5) 〈alakini〉
- (2) 想是告訴吧 (5a5) 〈dere〉
- (3) 起先想敢告訴了吧 (5b1) 〈aise〉

“吧咧”

“吧咧”は3例用いられ, うち1例は単独で用いられる。この表記は“罷咧”のバリエーションと思われる。

満洲語ではいずれも文末後置詞 **dabala** (～だけだ, ～ばかりだ) が対応する。

- (1) 告訴吧咧 (6a1) 〈dabala〉
- (2) 大不過告訴吧咧 (10a4) 〈dabala〉
- (3) 吧咧 (17b2) 〈dabala〉

(3) は満洲語の呼応関係を解説した部分で用いられており、“吧咧”と dabala が等価と認識されていたことを示すものであろう。

“啊”

“啊”は8例用いられ、うち2例は単独で用いられる。単独で用いられるうちの1例は“呢啊”の形を取る。

満洲語では、文末後置詞 jiya (～なのだ) に対応するものが2例、“呢啊”の形で nikai (～なのだ) に対応するものが1例あるほか、同じく文末後置詞と考えられる ya, na, nu, kai に対応するものが各1例である。

- (1) 告訴啊 (5b5) 〈jiya〉
- (2) 告訴是啊 (5b4) 〈ya〉
- (3) 没告诉啊 (5b5) 〈na〉
- (4) 不告诉啊 (5b5) 〈nu〉
- (5) 果然因告诉了啊 (9a1) 〈kai〉
- (6) 俱是啊之口氣 (21a6) 〈a〉

(6) は文末後置詞 na, ne, nu, ya, jiya, jiye, kai の意味を解説した部分で用いられており、a は漢語の音声を表したものである。

“呀”

“呀”は1例用いられる。前音節の末尾は -i である。

満洲語では疑問語尾 -o が対応する。

- (1) 告诉過的是誰呀 (9a6) 〈webio〉

“是咧”

“是咧”は1例用いられている。この語は朝鮮資料を除けば使用例がほとんどない。

満洲語では動詞 wajimbi (終わる, 尽きる) の連体過去形 wajiha が対応する。

- (1) 告诉是咧 (6b4) 〈wajiha〉

上では前に動詞の条件形を伴い、「～すれば終わりだ」を表している。

10.2.2 乙類

“來着”

“來着”は6例用いられ、うち2例は単独で用いられる。単独で用いられるうちの1例は“來着過”の形を取る。

満洲語では、“來着過”の場合動詞 **bi** の過去形 **bihe**（動詞の連体回想形 **-mbihe** に類似する）に条件形 **bici** が後続した **bihe bici**（あったとしても）に対応する以外は、すべて **bihe** に対応する。

- (1) 我先讀漢書來着 (4a1) 〈**bihe**〉
- (2) 何等樣的告訴來着 (9a6) 〈**biheo**〉
- (3) 來着過 (16a5) 〈**bihe bici**〉
- (4) 起根之下用來着字 (16a5-6) 〈**bihe**〉

上で動詞が先行する場合はいずれも過去形 **-ha** に後続しており、これは「過去に行われた行動の結果が現在も残っていること」を意味するという（河内・清瀬 2002 : 98）。(3) と (4) は満洲語の呼応関係を解説した部分で用いられており、“來着”と **bihe** が等価と認識されていたことを示すものであろう。

(了)